

貧困の三角形－社会保障制度への示唆

3. 社会保障制度への示唆

① 個人の自由と社会システム

人間の社会は、その中に生きる人々の生物個体としての命の継続を、集団の存続に託して集団的規制を生じせしめ、集団を維持し、物を、言葉（情報・文化）を、婚姻の相手（女性）を交換し合い、次世代の親族関係を発生せしめ、互いの集団間の交流を促して生きてきたとレヴィ＝ストロースはいう。しかしやがてその中から、奴隷制度を、様々な収奪、搾取のシステムを発生せしめ、支配者と被支配者階層や階級を生じたのも、人間社会であろう。

この人間社会の中で、最も過酷な場合は餓死をも引き起こす貧困がたびたび人間を襲っており、近代以降、共同体的な相互扶助のシステムが後退し、プロテスタンティズム興隆以降の「熱い社会¹⁾」の中で、都市生活者の多くが絶対的貧困をさまよったわけである。

20世紀には1943年のベンガル飢饉、1970、1980年代にはアフリカ大陸、バングラディッシュでの大規模な飢饉（死者が10万人に及んだとも言う）が起こり、サヘル砂漠地帯では2010年にも干ばつが襲っている。このような時代において人々の脱貧困を可能にする事、財や生活物資の活用行動上の自由の拡大を問題にするのが、センの貧困へのアプローチである。

センは現下の市場社会、市場原理の社会に生きる人間の幸せを、財活用のための行動の自由の拡大として求め、この文脈から社会保障を問題にし、「自由の平等」を求めている。

一方レヴィ＝ストロースは、アメリカの先住民の滅亡に近い状況を目の前にして、「野生の思考」の中の、論理性、合理性を指摘し支持する。彼は「社会」とは、人間という種の存続に欠かせない「人間にとっての生存条件」、生活財、婚姻の相手、そして様々な情報の、互酬的な交換を行う交流（コミュニケーション）のシステムとして形成されたと言う。

このようなレヴィ＝ストロースの指摘、発見は、自己利益最大化が正しいとして、自分の利益に最大の価値を置き、その利益を得る経過の是非、将来への影響、関係する他者、社会集団への配慮は無視して進んでいく、現下市場原理主義的な行動原理に対する大いなる「過去からの断罪」のように響いてくる。

② 貧困への対応を内包する社会保障の中で考慮されるべきこと

¹⁾ レヴィ＝ストロース／エリボン 『遠近の回想』 P225 みすず書房 1991年12月

1. 自然（生物）的要求への欠乏として現れる絶対的貧困に対応して、所得保障（市場での生活物資交換権限の保障）・生活物資の現物給付が必要である。
2. 文化的要求への欠乏として現れる不平等問題（相対的貧困）は生活の全分野を覆っているので、これに対して、対人社会サービスにより保健・医療・介護・教育・保育の提供が必要である。
(不平等問題は時代の進展、変化により特徴ある構造となるので、その生成変化を受けて展開する生活支援の専門分業システム、対人社会諸サービスが必要である。その制度の有効な活用、制度の使い勝手を評価するために、利用者の生活要求にそって各制度を繋ぎ合わせる相談、ソーシャルワーク相談が必要不可欠である。)
3. 国家や社会が行う社会保障制度を利用する人々への配慮、社会的な偏見、非承認、不平等に配慮せずには、制度は定着しないので、普遍的な社会保障制度が望まれる。
(所得要件や障害要件を外し、裕福な人も、貧しい人も共に受給者となる制度である)

そして給付されるすべての人々には、たとえばある種のベーシックインカムを支給されれば、勤労奉仕的な社会貢献（環境保全、介護、家事援助等地域活動、事務作業など）を数日間義務付けるなど、その全員参加的な協働のシステムの中で、共助、情報交換、交流を促すなどの工夫が必要であろう。

いわば互酬的な社会保障のシステム、人々の物心の交流を促し、互いに生活を潤し合う事ができる社会制度の構築である。

☆☆ 最後に ☆☆

自然状態から文化状態へと移行した人間生活の具体においては、自然的（生物的）要求と文化的要求は重なり合い、一つの具体的な要求の中で上下、左右と区分けする事は難しい。貧困はこの二つの要求への窮乏であり、二つの要求が互いに混然一体的に重なりあって厚みをなし、3次元的に膨らみや重なり合いを持っていると思われる。

レヴィ＝ストロースは人間の社会は、人の生命、生活の継続を求めて、婚姻規則（インセントタブー）という集団的な規律を受け入れ、その上に親族関係を形成して、親族集団間の交流を生じせしめ、財を交換しあい、次世代における同族的親和関係（コミュニケーション）を促しつつ生き延びて、今を迎えているとしている。

目を転じれば、現代における格差の拡大、文化的要求への欠乏の広がり、「社会的排除」として捉えられつつあると思われる。センは近代的自我そのものである「個人の自由」の側から自由の平等な保証を求めて、社会制度のあり方、社会保障制度を問題にしている。

我が国においても、若年層の雇用不安、不安定雇用が増大する格差拡大の今日、人間の社会が人間の生存条件（物資、情報、婚姻の相手としての女性）の交換のシステムとして生成された、はるかな昔に求められた社会の機能、役割を、互酬的な交換、交流をうながす社会を、この時代にこそ回復する事が求められているかのようである。

互酬的、普遍的な社会保障制度を構築し、これと並走して、人々が交流を促すシステムをつくり上げ、互いの生活を潤し合う交流が求められている。その中で、我々は自らの象徴機能の展開の上に、豊かさを、幸せを、拓いて行こうとする存在なのではないだろうか。

— 終わり —